

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいりんく糸満ラポール		
○保護者評価実施期間	令和7年5月7日 ~ 令和7年5月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	令和7年5月7日 ~ 令和7年5月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 5月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの事を十分理解し、子どもの特性に応じた専門性のある支援が受けられている。	様々な専門職が子どもの特性に応じて専門的な支援を行っている。	今後はアセスメントの充実を図り、保護者への確認の他子どもの意思（年齢相応）を確認し、子どもの気持ちに寄り添いながら専門的な支援を高めていきたい。
2	子どもが通所を楽しみにしている。 (安心して通所できている)	子どもが楽しんで過ごせるよう「子どものやりたい事」「挑戦してみたい事」ができるように支援すると同時に、子どもの気持ちに寄り添い安心して通所できるように支援を行っている。	子どもが「やりたい事」「挑戦したみたい事」等様々な選択肢から自己決定できるよう支援していく。 細やかな観察を心がけ、子どもの表情や言動から不安を感じている様子があれば、それを把握し不安感を取り除いていく。
3	おやつが手作りである。	子どもに食べたいおやつを聞き、その食材の中に子どもが苦手な食材を入れ子どもの「食べることができた」を引き出すように心がけている。 ご近所から頂いた野菜などをおやつの食材に使ったり季節の食材（アーサやモズク、フチバー等）を使ったおやつを提供している。	おやつを通して苦手な食材に挑戦することができるよう、職員が食育についての研鑽を積む。 楽しくおやつ等を食べれるよう、子ども一人ひとりの好みを取り入れたおやつ作りもしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他、地域の他のこどもと活動する機会がない。	外出時に、地域のこどもとの交流の機会はあるものの、保育所や認定こども園、幼稚園等との交流ができていない。	子ども達の気持ちを踏まえながら、可能な限り地域の保育所や認定こども園、幼稚園との交流図っていきたい。
2	バリアフリーではない	2階建ての建物の為、階段がある。	階段は手すりを付け、日々、手すりにゆるみがないか等点検をしていく。 階段1段1段に滑り止めをつける。
3	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われている。	契約時に年に2回以上の避難訓練や防災訓練を行っていると説明しているが浸透していない。	避難訓練や防災訓練を行ったことを保護者へ報告し情報を提供していく。